

**アスリートファイル** ..... 1

小西 杏(アスモ)

**カラー** 特集 ..... 4

平成18年度前期日本リーグ茨城大会

**カラー** ハイライト ..... 6

平成18年度全国ラージボール大会

**カラー** 広告 ..... 8

明治乳業

**グラフィック** 特集 ..... 10

平成18年度前期日本リーグ茨城大会

**大会ハイライト** ..... 14

平成18年度全日本ラージボール大会

**日本の肖像** ..... 18

大野省三(エネルギーアドバンス社長)

**この人のこの言葉** ..... 20

藤井基男(卓球愛好家)

**練習のヒント** ..... 22

織部幸治(ITS三鷹代表)

**新・中学生のための技術講座** ..... 24

田村明人(元群馬県中体連委員長)



4月に北海道で開催された鄭慧萍コーチのニッタク講習会。  
左は旭川実業高校

**慧萍卓球講習会**

**気ままにタイムアウト** ..... 26

佐藤正喜(日産自動車監督)

**アープでワープ** ..... 27

山中教子(サウンド球貴代表)

**春季関西学生リーグ戦、関西学生新人大会** ..... 37

**訪問レポート** ..... 38

湘南工大附属高校

**関東高校大会** ..... 40

**各地ラージボール大会** ..... 45

第5チャンネル ..... 28

ピンポン東西南北 ..... 30

各地レポート ..... 31

みんなのコーナー ..... 52

編集室 ..... 52

## Message

18年度全国ラージボール大会は、岐阜市で開催された。11年の札幌大会に初めて参加し、13年の宮崎大会には世界選手権大阪大会取材後ということで出場しなかったが、これまで7回参加をしている。

今回は、2200名が参加。一般をはじめ、各年代のレベルは年々上がっている。昭和63年に普及型の大会からスタートしたが、現在は、競技型+普及型という両面の大会といえるだろう。

今回、気になったことを一つだけあげてみたい。

それは、ジャッジの問題であった。審判の判断ミスは卓球に限らず、他のスポーツでもあること。人間が判断することであるから仕方がない。

しかし、そのジャッジに対し、対戦相手が知らないふ

りをするケースが幾度と見られた。対戦者は、今のボールがアウトかセーフかの判断は、大体わかる。

国際大会やヨーロッパで開催される大会を取材して思うことは、審判がミスジャッジをしても、選手自らが申し出、カウントを戻すということ。その行為は見ていて気持ちが良い。

今回のラージボール大会では、選手はわかっているのに黙っているケースが多かった。

これまでも、マナーやフェアプレーについて何度か書いてきたが、もう一度言わせていただくと、ルールは大切。だが、マナーはもっと大切であって欲しい。

ラージを愛好する者として、ラージ愛好者の人たちには特に、また、自身自戒を込めて。  
(片野)